

1 単元名 ことばのパレット ～ものがたりづくり～

2 授業構成

(1) 単元の価値と魅力

国語科は「ことば」を教える教科である。そのため、教えるべきこと、いわゆる目標や内容が普段私たちが当たり前のように使っている「ことば」そのものであるため、目標や指導事項が明解な教科に比べて難しいと感じられてしまうことがあるのではないだろうか。教える側にとっても難しい国語科の学習は、当然子どもたちにとっても「わかる」「できた」という満足が得られにくい。また、今までの国語という文字によるテキストを使っている読解が中心だったが、メディアの進歩とともに文字に頼らないテキストの開発も可能になっていくと考える。

新学習指導要領では、「言語活動の充実」が位置づけられ、言語能力の育成を重視し各教科等において言語活動を充実することとしている。このような流れになったことの背景には児童の読解力の低下やコミュニケーション能力の低下がある。近年児童の様子を見ていて、そのことを強く感じることもある。自分の感情を「うれしかった」「悲しかった」と一言でしか表現できなかったり、ちょっとしたことばの行き違いでトラブルになるという場面が見られたりする。言語能力の低下が、人間関係をも低下させる一因となっているように感じる。つまり、言語は論理的思考だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心をはぐくむ上でも、言語能力を高めることが大切なのである。そのために、国語科の学習の中で、語彙を増やして豊かに表現したり、言語を介したコミュニケーションをしたりできる能力の獲得をめざしていきたいと考え、本単元を設定した。

本単元では、児童が想像を巡らし、楽しく創作しようとする態度を育てられるように、児童がイメージを持ちやすい絵を使ってお話作りをする場を設定した。1枚の絵は想像力・空想力を使って書く力を高めたり、楽しみながら話す力を育てたりするのにぴったりの素材である。最初は、ボードゲームの絵を見ながら簡単な単文作りをさせる。想像したことを表現して伝えるという目的意識と、友達に対して表現するという相手意識を持たせ、学ぶ意欲の高まりをねらいたい。いろいろな絵をことばで説明する活動をしていくが、最終的には、絵のみで描かれたロートラウト・ズサンネ・ベルナの「ものがたりさがし絵本」を子どもたちのことばで本にしていきたい。この絵本は、春・夏・秋・冬の4冊の本で構成されている。明るく克明繊細な筆づかいで外国の町並みや自然の風景が描かれており、文は全く出てこない。しかし、1枚1枚の絵にストーリーや仕掛けがあり、それは見る者によっていろいろな受け取り方が出来るようになっている。子どもたちが絵の中からそれを見つけたり、ことばで表現したりするのに適した教材である。

本単元は、新学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

- (ア) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。
- (オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。
- (カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。

本時の学習では、自分が選んだ1枚の絵を、友達や参観されている方にことばで伝えるという活動を中心に授業を構成する。1枚の絵からストーリーを想像し、たくさんのことばを見つけたり、表現の工夫を

したりさせたい。また、同じ1枚の絵を見ても、受け取る印象やことばに対するイメージが人それぞれ違うことにも気付かせたい。

（２）学び合いを通して思考力・表現力を育成するために

自分の考えや思い、想像したことを「ことば」を通して伝えるためには、相手によりよく伝えるために適したことばを使いこなす感性と表現力が必要である。それらを豊かに行うためには、語彙指導の役割は大きいと考える。「学び合いを通して思考力・表現力を」を実現するためには、まずは、しっかりと「基礎・基本に支えられた知識や理解」を身につけさせることが大切である。国語科の授業の中で、「基礎・基本」を学んでいく際に、その学びをより豊かにし、意味を深め、広げ、児童が充実感や満足感を得られるような単元を設定すること、また、それが単発の学習にならないことが必要である。自作単元に取り組む良さは、子どもに付けたい力が明確になることと、教師が作ったり行ったりしたものを提示することで子どもの意欲も高まり、活動も進めやすくなることである。

2年生のこの時期は、1年生の頃に比べ少しずつ生活空間が広がると共に、日常語彙が広がっていく時期である。生活体験に基づいた「身近な生活の中の言語の世界」から、「概念的・抽象的な言語を含む世界」へ移行する中学年へのちょうど移行期に継続的語彙指導を行うことにより、今後さらにことばが広がっていくことを期待している。そこで、今年度も通年を通して「ことばのパレット」という学習の中で、語彙指導を行い、まず、語彙を豊かにし広げていくことを行う。

本学級の児童は、低学年ということもあり、まだまだことばが幼い印象がある。また、おとなしく、自己主張が弱いため、なかなか自分の思いが言えない児童も多い。また、どのように言えばよいのかどう表現すればよいのかわからないという、語彙力の弱さも感じる。そこで、楽しく意欲的にことばの学習に取り組むことにより、語彙力を高め、ことばで伝えようとする力をつけさせたいと考えた。ことばの学習に積極的に取り組ませるために、ことば遊びなどを取り入れ、まずはことばの学習は楽しいという気持ちを持たせるようにした。次に、読書を通してことばに多く触れさせるようにしていった。言語能力は、単にことばを知ったことで身に付くものではない。活用する場面がなければ生きて役立つ学びにはならない。

本単元の学習においては、言葉遊びや言語ゲームも取り入れながらことばに対する興味を持たせ、楽しさを味わわせたい。さらに、友達と伝え合ったり、家族に伝えたりすることの喜びや楽しさを感じさせたい。「話すこと・聞くこと」に関しては、普段の学習の中だけでなく、いろいろな場面を通して指導しているが、自己中心性の強い低学年児童は話したい気持ちは強い反面、友達や教師の話を聞いていなかったり、早合点してしまい内容を理解していなかったりということも多い。また、意見や感想を交流したり、質問したりというような「コミュニケーション能力」については、まだまだこれから指導が必要である。

このような実態をふまえ、本時の学習では、1枚の絵を見て友達と一緒にお話づくりをしたり、絵の中からたくさんのことばを見つけ出したり詳しくしていったりすることにより、楽しんで話をさせたい。また、友だちの話をしっかりと聞き、お互いの工夫やおもしろいところに気づいたりするようにしたい。そのため、学級全体での学習や少人数での学習も取り入れ、お話を作る意欲を高めたり友達のお話を参考にしたり、スムーズに話を作れるようにする。また、表現したものを絵本などにまとめることにより、他者を意識した表現の仕方を学習していく。できた作品に質を求めるのではなく、友達とお話をつなげると楽しいという気持ちの高まりを大切にしたい。また、語彙力を高め、文章表現力を養うだけでなく、アイデアや意見、感想を出し合うという児童同士の「かかわり合い」を重視し、他の人のお話に関心をもって聞いたり、語や文の続き方に注意して友達と話を続けたりできるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てたい。

また、国語科の授業において、語彙指導の必要性は感じながらもどの語彙をどのように教えるのか等についての基準や体系が十分に確立されておらず、計画性に欠け、単発での指導になりがちになっていた。一年を通して系統的・継続的に指導していくことが、表現力の向上につながり、向上した実感をもたせることが、豊かに表現しようとする子どもの意欲につながると考える。国語科の学習だけでなく、日常生活の中で、語彙に関する指導を繰り返すことによって、子どものことばの質の向上を図ることも必要である。

そのためには、児童の言語状況を正しく捉え、指導に生かせるような工夫をする必要がある。また、その中で児童自身が自分の言語状況を意識したり、ことばの大切さを実感したりさせていきたい。語彙指導を一つの基準として、学習を体系的にデザインし、かつそこでの活動を充実させることができれば、言語活動が単に楽しい学習に終わるのではなく、児童自身にことばの力の大切さを実感し、学習に没入できるのでは考えた。

児童にとって、絵を見て想像したことを書くことということの良さは、大きく分けて三つある。まず一つ目は、絵を見ることが児童にとって大変楽しいものであるので、それに関わる学習に対して関心・意欲を持ち続けられること。二つ目は、絵のストーリーを想像して書くということは、「こう読み取らなくてはいけない」「こう書かなくてはいけない」という規制がなく、児童が思ったことを思いのまま自由に想像し、書けるということ。三つ目としては、絵は色や人やものの名前、様子や動きなどの情報にあふれており、ことばに対する感性を磨き、生きたことばの働きを育てていくために感動をもって語彙の世界にふれ、響きやリズム、雰囲気を楽しむことができることである。

本時の学習では、自分が選んだ絵をことばで友達に伝えるという活動を中心に授業を構成する。その際、自分が選んだ絵をどのように紹介すれば、その絵の良さが聞いている人に伝わるのか、また、実際にどんな絵なのか見てみたいと思わせることができるのかという視点で活動を考え、授業を構成していく。

3 単元の目標

- ・お話作りに関心を持ち、楽しんで表現しようとする。
- ・絵から想像を広げて、簡単な構成を考えてお話を書く。

4 学習計画（全8時間）

第1次 絵だけの絵本からことばだけの本を作ることを知り、学習計画を立てる。（1時間）

第2次 ボードゲームを使い絵を文にする活動をする。（2時間）

第3次 自分の好きな絵を1枚選び、選んだ絵をどのように紹介するか考え、紹介する準備をする。
（1時間）

友達の発表を聞いたり、友達に絵を紹介したりする。（1時間）・・・本時

小グループに分かれて、絵だけの本をもとに文だけの「ものがたりえほん」を作る。

（2時間）

第4次 絵本の発表会を開き、お互いの絵本を見合う。（1時間）

5 本時について

（1）本時目標

- 友達同士で絵を紹介したり、友達の紹介の良さを見つけたりすることができる。
- 聞き手にわかりやすいように、はっきりと大きな声で話している。

（2）準備

教師・・・掲示用の絵、作文例

児童・・・ワークシート、自分の選んだ絵

（3）本時の展開（○教師の意図 ◇共同的な学びへの支援 ◆個の探求への支援）

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 意 図
1 今日の学習課題を明確にする。	○本時の活動を確認し、各自の学習のめあてを持たせる。

◎ じぶんのえらんだ絵をことばでつたえてみよう。

- 2 教師が選んだ1枚の絵を見て、みんなでストーリーを考えたり、ことばを見つけたりする。
- ・ 隣同士で話す。
 - ・ みんなで話す。
- 最初は隣同士の二人組で話すことにより、絵の紹介の仕方を理解させたい。
- ◇細かい所も見えるように、絵の入ったコピーを各自に持たせるようにする。
- ◆教師の作文例を掲示し、声に出して読ませることにより、内容をしっかり確認できるように指示する。
- ◇みんなで話し合うことで、自分の作文も工夫してみよう、付け加えて書いてみようという意欲を持たせたい。
- 3 自分の選んだ絵についての作文を、友達や参観者に紹介し、一言カードによかったところを書いてもらう。
- どのような点に着目して説明すればよいのかを、理解させたい。
- 早くできた児童には、書いた文章を見直し、さらに詳しくすることばがないか、確認するように見直しをさせたい。
- ◇できるだけくわしくことばで説明したり、様子を表すことばを使って説明すれば良いことを知らせる。
- ◆自分なりの工夫ができた児童の文章を紹介することにより、書けずに悩んでいる児童の助けとしたい。
- 一言カードにお礼や励ましの一言を書いてもらうことにより、他のグループの友達や参観者に紹介したいという意欲を高める。
- ◇お互いに正確に聞いたり話したりすることが、相手のことを大切にしていることだと気づかせたい。
- ◆なかなか自分から話しかけることのできない児童には、教師と一緒に付き添って紹介する。
- 〈どのような点に着目するか〉
- ・ 風景
 - ・ 場面
 - ・ 人物やその関係
 - ・ 動物や植物
 - ・ ものやその状態や質感
 - ・ 様子を表すことば
 - ・ 色
 - ・ 会話
 - ・ 音
 - ・ 比喻
- 4 今日の学習をふり返る。
- 本時の学習をふり返り、次時のめあてを持たせ、意欲的な学習へとつなげたい。

